

越嶺会報

令和6年(2024年)4月20日

第96号

発行 越嶺会本部

〒930-8555(富山市五福3190)

富山大学経済学部内

☎(076)445-6411(ダイヤルイン)

Fax (076) 445-6419

郵便振替 00710-9-14562

メールアドレス etsurei@eco.u-toyama.ac.jp

越嶺会ホームページ



富山大学経済学部(旧高岡高商)創立100周年

記念事業募金に、ご協力ありがとうございます。

すでに送金いただいた方にも、振込用紙を入れてあります。

周りの方々にお勧めください。

また、積み増しいただければ幸甚に存じます。

目次

第1部	100周年記念事業について(記念事業概要、寄附者ご芳名、実行委員名一覧)	
第2部	越嶺随想 翻訳本を読み比べる愉しみ(4・了) 杉浦吉治(学部14回).....	10頁
	富山大学の退職にあたって 中村和之先生.....	11頁
	定年退職に際して:感謝の言葉 秋葉悦子先生.....	12頁
	母校だより.....	13頁
	教員の異動 定年退職、新任	
	卒業 学部長式辞、入学	
	学生の動き ESTUDIO復刊第16号 体育会再開・初総会成功	
	各支部だより.....	18頁
	支部総会の予定、東海支部ゴルフコンペ報告、関東越嶺会講演会・新年会報告	
	会員の訃報.....	20頁
	ゴルフコンペ案内・申込書.....	21頁
	エクスカーション(バス小旅行)案内・申込書.....	22頁
	経営短大同窓会案内・申込書.....	23頁

富山大学経済学部 (旧高岡高商)

創立一〇〇周年記念事業 (再掲)

基本方針(要旨)

富山大学経済学部創立一〇〇周年の大きな節目を迎えるにあたり、創立五〇周年から実施された各記念事業の内容を踏まえつつ、母校である富山大学経済学部のさらなる発展に向けて、同窓生の連帯を強めるための事業を展開します。

多様な能力を活かしながら新たな付加価値を創造し果敢に未来を切り拓いていく人材がこれまで以上に求められることから、越嶺会としてその担い手の育成に向けて重点的な支援に取り組むものとなります。

募金について

(1) 募金方法

- ①募金は、分割も可とし、毎回の会報送付時に振込用紙を全員に同封。(周囲の会員に勧めてもらうためにも。)
- ②越嶺会報に寄付者名簿を掲載(募金者名の掲載についての意向を確認のうえ対応。匿名・金額非表示など)

(2)振込先は左記のとおりです。いずれも口座名「越嶺会」

郵便局 0071019114562

北陸銀行五福支店 普通1001220

富山銀行五福支店 普通0313728

富山第一銀行五福支店 普通0006156

富山信用金庫五福支店 普通0015639

(3) 募金基準額

■一口 五千元。基準額として、卒業年次別の募金要請口数を設定します。

A 高商、学部一〜二回 基準を設けず

B 学部一三〜二二回 現七〇歳代で2口以上

(できれば4口以上)

C 学部二三〜三二回 現六〇歳代で2口以上

(できれば4口以上)

D 学部三三〜四二回 現五〇歳代で2口以上

(できれば4口以上)

E 学部四三〜五二回 現四〇歳代で2口以上

F 学部五三〜六二回 現三〇歳代で2口以上

G 学部六三〜七二回 現二〇歳代で1口以上

H 短期大学部、院修了生

右記該当年齢区分に準じて1口(五千元)以上

■法人への募金要請額 一口 五万円

十三回

天谷昭信	柳原幸實	柳原紀一	柳澤一朗	藤田勇	野村厚壽	七山政廣	長森正弘	永井喜一郎	瀧脇通康	素野義博	小橋啓一	河原義一	上野一美	飯田捷政	荒川進	松野健作	松田邦雄	藤田長悅	匿名	塚光雄	高橋邦文	島田誠二郎	榊原悦夫	五十里紘一	井上喜文	稲田豐	伊藤壽彦	石出宗秀	横江重彦	水野英毅	舟田恒芳
一万	二万	二万	五千	一万	一万	二万	一万	非表示	非表示	一万	非表示	非表示	二万五千	五千	一万	一万	二万	三万	非表示	非表示	五千	一万	非表示	三万	二万	非表示	非表示	五千	一万	一万	一万

十二回

十四回

熊谷隆夫	片岡英夫	梯左武良	岡田一紀	岡田茂	学部14回	若林良三	吉田正和	吉居謙治	横井義則	行本達男	山本修三	宮森紀好	故宮本孝	松本浩	日野忠夫	原正治	博多義雄	西田達弘	中村稔	富田勇夫	谷垣喜博	清水汎	佐藤盤	佐々木法一	櫻田謙進	小林一志	小路博久	熊本勝四郎	北村哲夫	金山滿	五十嵐勇一
非表示	二万	一万	一万	五万	一万六五三〇	二万	一万	一万	一万	二万	非表示	二万	非表示	二万	一万	一〇万	五千	四千	一万	非表示	非表示	一万	五千	五千	一万	一万	非表示	一万	五千	三万	三万

十五回

清水忠勝	重久修造	小杉正義	子吉重信	黒崎晴光	亀谷弘学	入江鐵夫	今井松男	東勲	渡邊慶孝	渡辺勝海	四津井宏至	宮坂穎一	南章	水野俊雄	松井三郎	細木文夫	藤村亘	藤岡正紀	福田隆一	中山武夫	中土盛曠	中谷正八	内藤克昭	徳永丕	寺崎康彦	出口明男	杉山敏一郎	杉田征司	杉浦吉治	下平邦弘	小林和夫	
五千	非表示	五千	一万	一万	一万	二万	二万	一万	三万	一万	非表示	一万	一万	二万	二万	二万	一万	一万	一万	一万	三千	一万	一万	一万	一万	一万	一万	一万	二万	一万	一万	一万

十七回

黒田宣夫	川嶋隆志	兼松稔	大坪登喜雄	上埜進	磯井幹彦	池田匠一郎	青木昌毅	若山國夫	蓑有二	蜜澤宥二	堀道彦	針山健二	早川正敏	渡久山楯	太茂野洋	田上一夫	瀬筒澄博	小西由郎	久郷隆行	匿名	大野泰則	浅井育弘	吉田榮一	森川勝彦	三浦忠彦	松田弘	松井信夫	本多正文	林茂春	中澤邦雄	出嶋紀一郎
一万	非表示	非表示	一万	一〇万	非表示	五千	一万	二万	二万	五千	二万	二万	二万	非表示	一万	一〇万	二万	二万	二万	非表示	二万	二万	二万	一万	一万	一万	二万	一万	非表示	一万九千	二万

十六回

十八回

吉國	谷内	宮地	盆下	細萱	古田	二口	福田	日出	般若	浜松	浜田	長谷川	野村	中岡	島本	富田	高原	島田	佐々木	太田	遠藤	稻村	西坂	中西	殿村	田中	高田	篠田	佐野	吳座	郡
睦治	雅彦	秀明	登美雄	美嗣	俊吉	孝志	哲郎	恒夫	義一	政俊	等	健郎	邦雄	哲男	昌弘	大三郎	徹	重夫	俊夫	重和	敏之	敏夫	敏夫	誠一	和敏	政彦	幹夫	政治	憲正	谷孝一	霧
三万	二万	非表示	一万	一万	二万	五千	二万	非表示	一万	一万	一万	七万	一万	非表示	一万	一万	一万	一万	非表示	非表示	五万	二万	二万	一万	一万	五千	一万	一万	非表示	一万	二万

二十回

渡辺	吉谷	森田	森下	堀切	舟木	寺林	辻	関井	衣斐	加藤	小野	匿	大谷	浦田	上田	山下	緑	松田	福田	伴	能町	西堀	寺越	田畑	田辺	高田	島津	後藤	金森	奥	今井
吉明	知二	博	俊夫	実	幸雄	敏	敏憲	哲仁	隆	博祥	崇	名	忠久	規央	敏裕	寛	忠夫	弘之	幸進	茂夫	誠一	喜久夫	慎一	敏美	知昭	真悟	一夫	健次	喜久男	清一	修一
一万	非表示	一万	一万	五万	三万	三万	一万	五千	一万	一万	二万	非表示	一万	二万	一万	非表示	一万	非表示	二万	二万	四万	非表示	二万	二万	二万	二万	二万	二万	一万	非表示	三万

二二回

堀	北国	長谷川	中村	中坪	寺田	千葉	田中	立松	武部	竹澤	杉森	窪田	川畑	上條	帶原	往藏	梅本	石田	穴田	浅野	米原	橋本	橋本	寺田	谷	澤合	釜谷	角出	小竹	奥村	浦本
雄一	正則	修	昌弘	達哉	登	茂幸	史	信孝	巧	喜孝	聡	建司	滋樹	光信	隆	龍夫	清一	聡	茂	好生	俊孝	良平	洋二	正信	和夫	文雄	春雄	憲明	茂樹	正明	寛
一万	二万	二万	三万	二万	一万	二万	一万	一万	二万	二万	二万	一万	五千	二万	二万	二万	三万	非表示	一〇〇万	非表示	一五万	二万	一〇〇万	一万	二万	二万	八万	一万	三万	一万	二万

二五回

石川	飯塚	荒田	麻生	藤田	服部	匿	寺戸	田中	末永	庄司	池原	毛利	南	松本	松下	松尾	平方	樋口	橋本	名小路	谷口	竹田	清水	匿	石原	安田	森田	三宅	松井	松	榎
富弘	修	一成	郁彦	龍造	重敬	名	弘之	久夫	孝光	美次	孝一	彰	毅之	敏郎	勝見	博文	陸男	高利	邦雄	朝雄	俊幸	敏博	修	名	昇治	隆	守保	博	清信	二郎	春夫
一万	五万	非表示	五千	二万	一万	非表示	二万	二万	一万	非表示	二万	一万	二万	一万	二万	二万	二万	一万	一万	一万	一万	一万	一万	非表示	二万	五千	一万	一〇万	非表示	一万	一〇万

二四回

二三回

二七回

大野 泰典	大野 昌伸	大澤 道信	岩見登志久	岩垣 誠	伊田 知弘	持田 寛	皆川 藤夫	増井 秀次	堀田 正之	細川 茂	沼田 穂積	匿名	高田 昇	鈴木 昭一	柴田 清	川端 文夫	川口謙一郎	金田 弥之	金武 和宏	奥田 泰三	内山 尚秀	伊藤 恒俊	五十嵐 修	山澤 昌子	森高 寿正	村山 修	匿名	橋本 泰	布目 大剛	吉川 倫子	加須榮徹朗
二万	非表示	非表示	一万	非表示	二万	非表示	一万	一万	一五万	一万	五万	非表示	一万	一万	一万	五千	五千	一万	一万	一万	一万	一万	二万	一万	一万	三万	非表示	五千	五万	一万	二万

二八回

古岡 雅弘	原馬 宏之	濱田 博一	辻 年男	高月 修	高崎眞樹夫	杉野 武義	嶋崎 貢	乙部 昭広	奥村 健一	海野 等	荒木 正一	芦田 静男	和多利隆之	吉野 哲哉	山元 秀一	森川 完一	前田 昭夫	廣瀬 靖明	平工 信雄	林 正人	林 茂美	馬場 幸博	永田 芳久	長瀬 稔明	中島 清雅	常本 悟	曾我 教夫	小林 武人	木村 正明	川瀬 基裕	小川 繁夫
五千	一万	一万五千	一万	一万	一万	三万	二万	非表示	一万	一万	一万	一万	非表示	二万	一万	五千	一万	二万	二万	二万	二万	二万	二万	二万	非表示	二万	一万	三万	二万	二万	二万

三〇回

長坂 保彦	匿名 裕行	寺西 裕二	恒川 康之	辻 康之	杉村 裕之	杉林 功進	伍嶋二美男	桑原 幹也	京田 武彦	乙部 寿範	伊野 伸英	脇田 守男	山城 卓三	柳 勝彦	宮村 樹	匿名 和之	松田 義彦	松島 孝雄	堀 俊治	細川 均	古川 直樹	福井 初弘	鶴瀬 政司	鈴木 勉	黒河 龍弘	川崎 昇	梶井 優治	東 英博	山本 名	匿名 克博	前川 博
二万	非表示	二万	二万	二万	一万	一万	三〇万	五万	非表示	二万	二万	二万	一万	二万	一〇万	非表示	二万	五千	五千	五千	一万	三万	三万	一万	一万	一万	五万	二万	二万	非表示	三万

二九回

油谷 浩	匿名 康二	山本 徹	森永 利宏	森永 康浩	松井 哲也	福田 純一	長谷川純一	野坂 信宏	寺松 悟	津幡 博和	竹野 俊一	加藤 幸治	石井 一秀	秋元 和子	綿木美和子	横尾 進	細川 友晶	舟崎 哲広	中村 義明	篠原 博紀	境 名	匿名 正昭	匿名 名	岩瀬 克彦	四柳 吉晴	山田 豊	本田 隆博	広田 豊秋	野村 三・都	野路耕三	中根 登
二万	非表示	一万	一万	二万	二万	非表示	非表示	二万	二万	五千	一〇万	非表示	五万	非表示	二万	一万	二万	二万	二万	三万	一万	非表示	非表示	二万	二万	三万	一万	一万	二万	四万	一万

卒回	卒年	お名前 (ゼミ名)	卒回	卒年	お名前 (ゼミ名)
48回	H12(2000)卒	川畑 雄史 (田中)	32回	S59年卒	竹野 博和 (吉原)
49回	H13(2001)卒	沖 よし子 (今村)			石井 幸治 (吉原)
		小笠原史明 (中村)			森 浩一 (小島)
50回	H14(2002)卒	宮崎 達也 (内田)			(石川支部長)
51回	H15(2003)卒	花岡 秀樹 (高山)			森永 利宏 (田中)
52回	H16(2004)卒	黒崎 正 (小倉)	33回	S60年卒	福田 直之 (吉原)
53回	H17(2005)卒	開坂 哲也 (増田)	34回	S61年卒	木村 温子 (吉原)
		川崎 理恵 (中村)			崎 安宏 (澤野)
54回	H18(2006)卒	重原佐千子 (鈴木)			土屋 誠 (坂口)
55回	H19(2007)卒	能登 幸美 (清家)			長津 輝彦 (中山)
57回	H21(2009)卒	道林 達也 (中村)			松本 智広 (中藤)
58回	H22(2010)卒	福田 純子 (宮井)			丸杉 輝 (吉原)
59回	H23(2011)卒	川口 彰悦 (石田)			山瀬 孝 (萩野)
		黒川 美恵 (松井)			山田 勉 (伊藤)
		園部 佑樹 (本間)	35回	S62年卒	岡本 武 (森菌)
61回	H25(2013)卒	杉江 咲樹 (高山)	36回	S63年卒	浦田 純一 (大野)
62回	H26(2014)卒	岩井 彬穂 (清家)			川端 宏典 (丹羽)
63回	H27(2015)卒	金沢 輝 (馬)			杉本 正人 (棚田)
65回	H29(2017)卒	長沖 賢志 (横山)	37回	H01(1989)卒	大西 哲憲 (小原)
		清水 雅文 (八百)			竹内 博文 (吉原)
67回	H31(2019)卒	堀川潤一郎 (古川)			谷畑 滋英 (古田)
		山田 航大 (橋口)	38回	H02(1990)卒	加藤 健 (萩野)
68回	R02(2020)卒	青木 佑司 (眞部)			竹田 達矢 (吉原)
		中田 雛子 (伊藤)			殿村 幸子 (佐藤)
69回	R03(2021)卒	吉田 未央 (龍)			大波加 肇 (相沢)
		末石 航也 (中村)			五島 直樹 (萩野)
70回	R04(2022)卒	井澤 彩斗 (龍)			高木 雅弘 (古田)
短2回	S38(1963)卒	稲垣 喜夫 (田村)			二口 洋 (日水)
短3回	S39(1964)卒	高田 政公 (飯田)			山崎 努 (武脇)
短6回	S42(1967)卒	大垣 輝夫 (飯田)	39回	H03(1991)卒	亀永 辰之 (榊原)
短8回	S44(1969)卒	松沢 一郎 (藤原)	40回	H04(1992)卒	寺嶋 直美 (岩崎)
短9回	S45(1970)卒	河原 憲行			赤川 浩一 (萩野)
短11回	S47(1972)卒	重松 文治			堺 広光 (小原)
短13回	S49(1974)卒	嶋田 茂晴 (高橋)	41回	H05(1993)卒	金瀬 正志 (古田)
短16回	S52(1977)卒	浦田 竹昭 (榊原)			牧山 貴英 (武脇)
		志村 幸光 (岡本)	42回	H06(1994)卒	東田 勇秀 (中藤)
		中保 仁志 (岡本)	43回	H07(1995)卒	手崎 裕之 (山本)
短24回	S60(1985)卒	山崎 宗良 (榊原)	44回	H08(1996)卒	小島 雅史 (飯野)
院20回	H24(2012)卒	荻布 彦 (内田)			杉原 英樹 (小原)
			46回	H10(1998)卒	村田 英久 (小原)
			47回	H11(1999)卒	大嶋 敬右 (田中)
					上田亜希子 (榊原)

越嶺随想－翻訳本を読み比べる愉しみ (4) 杉浦吉治 (学部14回)

たいする愛」、高は「我々の愛国心」、そして村井・北川は「私たちは祖国を愛する (あまり)」と訳している。水田はややくどいし、“nation”を「国民」と訳しているがここでは「国」の方があとの繋がりがよい。村井・北川は後に続く文脈から特に問題は無いが、ここは高の訳がシンプルでよい。

“superior”を水田は「上位者」、高は「上司」、村井・北川は「上位機関」と訳しているが、ここは明らかに「上位機関」であろう。

“The regard for the laws of nations, or for those rules”を、水田と村井・北川はともに「国際法」、高は「それぞれの国の法律」としている。ここはシンプルに「国際法」がよい。

最後のフレーズは、三者三様であるが、水田の翻訳は読みづらく、村井・北川の方が分かり易い。

この一節は、ちょうど英仏7年戦争(1756～63年)のときに書かれたものであるが、正に現在の世界情勢を如実に表している。「国際法とは、つまりは独立国が相互の問題解決を図るうえで遵守すべきだと公言する規則、あるいはそう考えるふりをしてい
る規則であって、この規則の遵守は往々にして口先だけ、形だけである。」と、263年前にスミスが著していたことに驚き、人間はいつになっても進歩していないことに愕然とさせられる思いである。

『道徳感情論』は18世紀の英語で書かれたもので、しかも現代の英語に比べると一つの文章が随分長くて読みづらい。単語も現代の英語とスペリングがわずかに異なっているものがある。

例；aggrandisement⇒aggrandizement、neighbouring⇒neighboring、
pretence ⇒pretense

翻訳本をこのように比較して読んだのは初めてだが、経済学者(水田、高)の訳と翻訳家(村井・北川)のそれとの違いがよく分かった。『道徳感情論』を著したスミスは言うまでもなく「経済学の父」といわれているが、グラスゴウ大学で道徳哲学の講義をしていた。『グラスゴウ大学講義』では、経済学に関するものが法学の一部として扱われていた。と同時に法学も経済学も、スミスにとっては、広く道徳哲学の一環として扱われていた(高島善哉)。もともとこの書は経済学書ではなく『国富論』出版の17年前に著した道徳倫理学の著書である。従って、経済学者よりも翻訳家の訳本の方が読みやすかったのであろう。

翻訳家でMパワー・パートナーズ共同創業者でもある 関 美和女史が、「著者の声が聞こえるように読者に届けることも心がけます。もしこの人(著者)が最初から日本語で書くとしたらどう表現するかということも考えます。自然な日本語になるように心がけています。」(朝日新聞、2022.04.16朝刊)と話していることに大いに納得したものだ。

おわび：分割掲載で読者には読みづらく、筆者の杉浦様にはご迷惑をかけました。
分割掲載完結にあたり改めておわび申し上げます。(事務局)

富山大学の退職にあたって

経済学部教授 中村 和之



一九九四年(平成六年)四月に富山大学に講師として着任しました。以来、三十年間にわたって経済学部教員として勤務し、本年三月を以て大学を去ることとなりました。振り返ってみると、人を育てる立場にありながら、私自身が富山大学や越嶺会の皆さまに育ててもらったという気持ち強く感じます。

着任まで富山との縁は殆んどありませんでした。大学まで大阪で過ごし、卒業後も大阪や神戸で流通業(スーパー)に勤務していました。その時の社員旅行で北陸を巡り、宇奈月温泉に宿泊したことが富山との唯一の接点でした。

その後、退職して大学院に進学、博士課程二年のとき、富山大学に採用いただきました。今でこそ大学教員のキャリアは多様ですが、当時は学部を卒業後そのまま大学院に進学、就職する経路がほとんどであり、変則的な経歴を持つ私を採用してもらったことに感謝しています。

着任後は大学の近所に家を借り、通勤のストレスもなく研究に専念できました。当時の経済学部には経済学の諸分野を網羅したスタッフが在籍しており、共同研究へのお誘いを数多くいただきました。改めて数えてみると経済学部教員との共著で二十編以上の論文執筆や学会報告をしています。

経済学部では、国内外で活躍中の研究者を招いたセミナーも活発に行われていました。越嶺会からは、研究者の招へいやセミナー運営のために多大な支援をいただき、研究面で地方大学のハンディを感じることがありませんでした。この結果、本来の研究領域である財政学から、国際経済や地域、環境、所得分配の理

論など收拾がつかないほど関心が拡がりました。学界や社会に対して意義ある研究ができたとは到底言えないのですが、自分なりに楽しく充実した研究者生活でした。

教育では、ゼミナール活動の活性化に対して、越嶺会より多大なご支援をいただきました。ゼミナールを活性化させようと考えたきっかけは、経済学部資料室で過去の卒業生が執筆した論文集(ESTUDIO)を見て、その内容やしっかりと文章構成に驚いたことです。

そこで、当時、星野先生(名誉教授)が尽力されていたインターゼミ(北信越ブロックインター大会)への参加と、長らく休刊状態にあったESTUDIO誌の復刊に経済学部の先生方とともに取り組みました。越嶺会からはインター大会参加のために支援いただくとともに、ESTUDIO誌掲載論文の表彰にも協力いただきました。

私のゼミもESTUDIO誌への掲載を目指してチーム研究に取り組んできました。夜遅くまで情報端末まで頭を

悩ましたゼミ生も多かったと思います。フィールド調査でゼミ生が富山大学経済学部の腕章を着用していると越嶺会会員の方から声をかけていただくこともありました。二〇〇九年に復刊を果たしたESTUDIO誌は現在も発行されており、経済学部資料室に所蔵されています。また、国立国会図書館にも創刊号以来、すべての巻号が所蔵されています。



2014年9月、創立90周年記念式典で学部長として挨拶

二〇一四年(平成二十六年)から四年間、経済学部長を務めました。就任した年に経済学部は創立九〇周年を迎え、九月二十日に記念式典と越嶺会主催の祝賀会に臨みました。たいへん盛大な催しとなり、来賓である文部科学省

の方が「旧高商の底力はすごい」と驚いておられたことを覚えています。

また、この時期、越嶺会本部はもとより、金沢、関東、東海、関西、経営短大の総会にもお招きいただきました。総会では会員の皆様の思い出話をたいへん楽しく聞かせていただき、私自身が卒業生のような想いを持ちました。

学外の活動でも越嶺会会員の皆さまにはたいへんお世話になりました。専門が財政学と言う国や地方自治体の経済活動を分析する学問であったこともあり、県や市町村の審議会や委員会に参加する機会が多くありました。そこでは自治体職員や委員として多くの越嶺会会員が活躍されていきました。

二〇二四年は経済学部創立百周年の節目の年です。また、大規模な学部改革も実現しました。これを契機として、越嶺会会員の皆さまの一層のご活躍を祈念しています。

(なかむら かずゆき)

定年退職に際して

感謝の言葉

秋葉 悦子



一九九三年十二月に経済学部経営法学科に赴任致しました。私は千葉の出身です。それまでは学校も大学も就職もすべて首都圏内でした。母は

九人兄弟姉妹の上から三番目、私は幼少時から頻繁に東京下町の母の実家に泊まり込み、大勢の叔父叔母いとこに囲まれて大家族での生活を謳歌していました。祖父母はともに

福井の出身で、祖父は工場の経営者でしたが自ら職人でもあり、晩年まで敷地内の工場に働いていました。今思うと、仏壇と神棚を備えた典型的な北陸の旧家でした。千葉にある父の実家ではまず目にすることのなかった鯉の昆布巻きや雲丹の瓶詰めが日常的に食卓に上り、若い頃の母はスキ

ーの名手でした。とは言え、私自身は福井に赴いたことがありませんでしたので、富山大学への赴任は自らのルートを探る期待に満ちた旅の始まりでもありました。赴任が決まったとき、「人情の深い土地柄でよかったね」と言ってくれた叔父の言葉を思い起こすような幾多の出来事を積み重ねて三十年の時を過ごすことができました。様々な形でお世話になった皆様に、この機会を借りて心から感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

私の専攻は刑事法学ですが、父が精神科医だったこともあり、特に医療に関わる領域を専門に研究してきました。もとよりこの領域の問題は、いわゆる医事法だけでは決着がつかみません。最新の医学知識はもちろんのこと、法学の基礎をなす哲学や、古代ギリシャ以来、医療・看護専門職に受け継がれてきた伝統的倫理学、日本ではほとんど知られていない職業義務論を踏まえなければ建設的な議論はできません。それは文理融合型の学際研究の典型とも言えます。私は当初、尊厳死を研究

テーマにしていきましたが、着任後間もなく、半年間ローマでの在外研究の機会をいただき、以後、医学法学の本拠地イタリアで最先端の学問を学び続け、生涯の研究テーマとすることができました。

パンデミックや地球温暖化、戦争による大量移民が引き起こす危機的事態に直面して、世界は今、歴史的な転換期を迎えています。「健康格差は経済格差」という言葉どおり、医療の問題は経済学、経営学、国際政治学の領域にも射程を広げなければ論じることができなくなりました。医学法学の学際性を認識しながらも、私自身、経済学や経営学は私の研究領域からはほど遠い学問だと思っていました。パンドミックによってその密接な関係性に気づくことができるとき、これまで自分が経済学部の中の経営法学科というどれほど恵まれた環境で研究してきたかを改めて認識させられた次第です。

イタリアの経営現場には、自ら構築した経営倫理学に基づく企業経営によってローマ近郊のソロメオ村で高級カシミヤ製品メーカーを創業して

大きな成功を収め、人生の夢を実現したブルネロ・クチネリのような実業家が出現しています。美、人間愛、真理という永遠の価値とテクノロジーの調和、すなわち文理融合型の企業経営を理想に掲げ、「人間の道徳的および経済的な尊厳」を最高原則に据えて自ら起草した会社の倫理規程は、古代ギリシャの医聖ヒポクラテス以来の「人間の尊厳と医専門職の尊厳」を最高原則に据えた医専門職の職業義務規程、そしてそれを格上げした国際社会の医療法制とみごとに呼応しています。

富山は信仰心の篤い妙好人を輩出した地です。霊峰立山連峰と神秘的な日本海を同時に臨むことのできる豊かな自然環境に恵まれ、人間愛に溢れ、職人芸に秀でた人々によって育まれてきた北陸の地はソロメオ村と類似した環境にあります。善意の民間人の創意が相互に照らし合って高度物質文明と高度精神文明のバランスのとれた人間社会が開花する新時代はすでに到来しています。富山大学の卒業生や学生たちが世界市民として文理融合型の人間社会の担い

手となることを祈念して、お別れの言葉とさせていただきませう。

(あきば・えつこ)

母校だより

教員の異動

定年退職

(二〇二四年三月三十一日付)
中村和之教授(地方財政論)
一九九四年四月着任
三〇年在籍

秋葉悦子教授(刑法学)
一九九三年十二月着任
三〇年四月在籍

新任

(二〇二四年一月一日付)



内藤颯海(ないとう・りう) 講師

担当: 数理ファイナンス、データサイエンス

最終学歴: 一橋大学経済学研究所

前職: アセットマネジメント One株式会社

生年: 一九九四年十二月

出身地: 鳥取県米子市

ひとこと: 前職はみずほ系の資産運用会社でクオンツ・データサイエンティスト・ファ

ンドマネジャーとして勤務しておりました。

大学入学以降はしばらく東京で生活しておりましたが、

実は富山県と同じ日本海側の鳥取県出身です。

元日に能登半島地震が起き、富山でも大きな被害が出て

いますが、幸いというか当日はまだ富山に居なくて、5強の

地震は経験していません。東京ですっかりなまっています

た雪への耐性を叩き直せと言わんばかりに私にとっての大

雪と共に富山の生活を始めることとなり、電気毛布を購入

しました。

研究分野は数理ファイナンスです。実務で日々行われている金融商品の価格付や金融

リスク管理において欠かせない精緻な計算アルゴリズムについて研究をしております。また近年話題となっている深層学習を活用した数値計算法に関する研究を行っています。

まだまだ未熟でわからないことばかりですが、精一杯学生への指導および研究に取り組んでまいりますので、皆様今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

(二〇二四年四月一日付)

山本真人(やまもと まこと)

助教(地理情報学)

松本知己・特命助教

山本先生、松本先生は次号で紹介いたします。

卒業

二〇二四年三月二二日(金) 富山市総合体育館で、富山大学全体の学位記授与式が挙行された。九学部一七一七名、大学院四八二名が学位を受けた。

経済学部(第七二回)では 昼間主コース三〇二名、夜間主コース二六名、また、大学院人文社会芸術総合研究科共創経済プログラム十二名(第三十二回)であった。

全学授与式では、経済学部の、鳥居彩音さんと近藤もえさんが学長表彰を受けた。学部生を代表して神家華朋(かみけ・かほ)さんが答辞を述べた。

学部授与式では、鳥居彩音さんが答辞を述べた。

学部長式辞



皆さん、ご卒業、修了おめでとうございます。今日の日を迎えられたことを、経済学部教職員を代表して心よりお祝い申し上げます。また、これまで皆さんの学業を支えてこられたご家族の皆様にも、心よりお慶び申し上げます。そして、本日、来賓として、経済学部同窓会・越嶺会の伍嶋会長にご臨席賜り、学位記の授与を行うことは私たちの慶びとするところであります。さて、卒業生・修了生の皆さんは、本日をもって大学での学びを終え、社会に向けて巣立って行かれます。それぞれが社会人としての生活に大きな期待と希望を抱いていることと思います。皆さんが入学された二〇二〇年四月は、まさに新型コロナウイルスの脅威に翻弄されていた時期でした。しかしそのコロナウイルスも、昨年五月に、感染症法上の位置づけが5類に移行され、いよいよアフターコロナの時代を築き上げていくまさにそのタイミングで皆さんは社会へと羽ばたいていかれます。



鳥羽先生ゼミ



秋葉先生ゼミ



学位記授与



伍嶋越嶺会長挨拶



学位記を手に



馬先生ゼミ

ただ、世の中は、大きな変化が頻発する先を見通せない時代でもあります。コロナもそうでしたし、この一月には能登半島地震がありました。また、世界に目をやるとロシアのウクライナ侵攻や、イスラエルとハマスの戦闘などが勃発しています。

その一方で、Chat GPTをはじめとする生成AIの発展がこれまでの社会を大きく変えようとしています。経済分野においても、日経平均株価が三四年ぶりに最高値を更新したり、マイナス金利政策から「金利のある世界」への移行が動きだしたり、また春季労使交渉での賃上げが軒並み大幅アップといったニュースが連日流れたりしています。

皆さんも世の中は確実に変わり始めている、急速に動き出しているという実感をもっているのではないのでしょうか。このように、アフターコロナの時代とはコロナ前に戻ることではなく、これまでとは異なる新しい時代を迎えるということであり、今そこへ向けてものすごいスピードで動き始めているということだと思

います。バブル崩壊後長らく続いた「安定」を求めてきた社会が大きく変わろうとしているのです。そうした動きはこれからますます大きくなり、そして加速していくものと思われれます。

皆さんは、このように時代が大きく変わっていくと感じている中で社会へ出て行かれるわけですが、そこで力強くしなやかに生きていくためには、「柔軟性を持つこと」がとて大切だと思えます。「柔軟である」ということは、自らが「変わっていく」ということでもあり、それを恐れてはいけません。ともすると安定した現状にとどまりたいという気持ちが勝ってしまうかもしれません。ただ、今、時代は大きく動いています。想定外の変化が急速に起こる状況下では、従来型の思考方法・やり方では行き詰ってしまいます。新しい時代に向けて新しいことにチャレンジし、新しいものを生み出していくためには、過去の延長線としてではなく、その時々状況の的確につかみ、自らの思考方法・やり方を変えながら、



高山先生ゼミ



松井先生ゼミ



中村和之先生ゼミ



万歳三唱
中村和之先生



中村真由美先生ゼミ



岩内ゼミ

柔軟に対応していく必要があります。新しい時代を作り上げていく主役であるみなさんには、ぜひ自らが「変わる」と「に勇気を持ってほしい」と思います。

今日の生成AIの発展には、目覚ましいものがあります。現時点ではまだ膨大な過去の学習の上に成り立っているのです。人間には過去の延長線上で考えるだけではなく、従来の発想から飛躍した価値を生み出す、まさにイノベーションを起こすクリエイティブな力が備わっています。それは「変わる勇気を持つ」とから生まれるものだと思います。

こうした「変わる勇気を持つ」ためには、自らを絶えず磨き続けることが大切になります。そのため、常に学び続ける気持ちを持たずに持つていてほしいと思います。学びは学生時代だけのものではありません。むしろ社会に出てからこそ、学び続けることが大切になります。社会の進化・革新のスピードが速まっている中で、それに対応するために、常に好奇心をもって

情報を収集し、前向きに新しい学びに挑戦してほしいと思います。そうした学びは自信につながり、「変わる勇気」とも育まれるはずで、変わるということは「成長する」ということでもあります。

そうした学びの際には、ぜひ大学・大学院を活用してください。大学は卒業したら終わりではありません。新しい学び、より高度な学びのために戻ってくるができます。それに対応すべく、大学も大学院も進化を続けています。社会人を経験して一回り成長した皆さんと議論を戦わせる学びの場が実現する日を楽しみにしています。

また大学は必ずしも学問的な学びだけではありません。皆さんは、大学生活を通じて生涯にわたるかけがえのない仲間に出会えたのではないのでしょうか。このように、大学は自らの人間性を高めていく人生の学びをする場でもあります。ですから、社会に出て困難にぶつかった時、心の支えが必要になった時には、ぜひ懐かしい学び舎を訪ねてきてください。きつと恩師や先輩たちが温かく迎えてくれる

は、再び困難に立ち向かう勇気と力を与えてくれると思います。

さて、今日から富山大学経済学部、大学院共創経済プログラムは、皆さんの母校となります。二万五千人を超える先輩たちが築き上げてきた地域や人々との繋がりは、皆さんにとってこれからの人生を生き抜く大きな財産になることでしよう。

これまで大学・大学院で学んだこと、経験したことは必ずこれからの人生の糧になるはずで、皆さんには自信をもって自らの道を進んでいてほしいと思います。

皆さんの将来が実り多きものであることを心から願っています。経済学部、大学院共創経済プログラム学位記授与式の式辞といたします。

令和六年三月二二日
富山大学経済学部長
森口 毅彦

入学

令和六年度の入学式が四月五日(金)に富山市総合体育館で行われた。

九学部生は一八六〇名、院生は五六二名、計二四二二名であった。うち経済学部生は、三三九名、三年次編入生が十二名、大学院の共創経済プログラム入学生は十二名であった。地域別入学生数は次号でお知らせします。

学生の動き

ESTUDIO
復刊第十六号(通巻第四七号)
掲載論文

富山大学経済学部
ゼミナール協議会
二〇二四年三月発行
コロナ給付金在家計の効用に与える影響

中川 雄太、中島 優太、
沼 翔太、藤崎 愛留、
立野 春花
日本の低賃金問題とその解決策の提案

桶谷 圭佑、桐野 真大、
坂林 玲花、櫻井ひ奈子、

土田 舜斗
法人税と所得税の減税効果に
関する理論分析

杉本 遼介、大島 拓海、
竹内 颯良、寺崎 壮大

新たな危機に直面する日本財
政―財政破綻したギリシャに
近づきつつある日本―

沖田 りの
キャッシュレス化の効果と進
め方に関する考察

野村虎太郎、山田 大智
日本における子供の貧困と女
性―母子世帯を踏まえて―

本島 玲
新しい社会的養育ビジョンの
方針と児童養護施設の運営課
題

佐野 竜太、島田 俊介、
松田 彩果

富山県における道の駅の運営
について―理想の道の駅とは―

大音 拓望、澤田 亮、
鈴置 拓也

富山市のまちなか居住推進事
業による効果と課題

草井 伯記、栗原 嘉宏、
佐々木諒太、中村 玲菜
富山市における路面電車の現
状と課題―南北接続事業から
見る利用促進の必要性―

関 拓海、新谷 榛己

富山大学体育会再開 初総会開催成功

山口 達弘

コロナ禍で令和四年度に事
実上解散していた富山大学体
育会が、再結成された。

学生会館にあった体育会室
も管理者不在で無くなり、そ
れまでの資料もほとんど残さ
れていない状況から、OBの
呼びかけに応じた四人の学生
が再結成させた。

初総会は十二月二十日に経
済学部一〇九室で開催された。
冒頭、二〇二三年十月に亡
くなられた体育会初代委員長
苗加仁之氏(学部十三回)へ
黙祷を捧げ、体育会六十年の
歴史に思いをはせた。

総会には加盟一五クラブの
うち一〇クラブの代表者が参
加した。議事として、活動報
告・会計報告が承認された。

新事務局、次年度の活動計
画と予算案も異議なく承認さ
れた。第五九期委員長には人
文学部二年・柔道部の窪田圭
太さん、副委員長には人文学
部二年・男子ハンドボール部
の山本明日佳さんが就任した。

現在は、この四月からの実
動を目指して一八人の事務局
員で準備を進めているところ
である。六〇年前の体育会の
目的「全学生の体育振興とそ
の育成を図るとともに、相互
の親睦を深めること」にブレ
ることなく、活動を進めてい
く。

しかしいままでの加盟クラ
ブ数よりも少なく、すべての
学生が従来の体育会の活動を
経験していない中で再開な
ので、令和六年度はすべてが
試行錯誤で動かなければなら

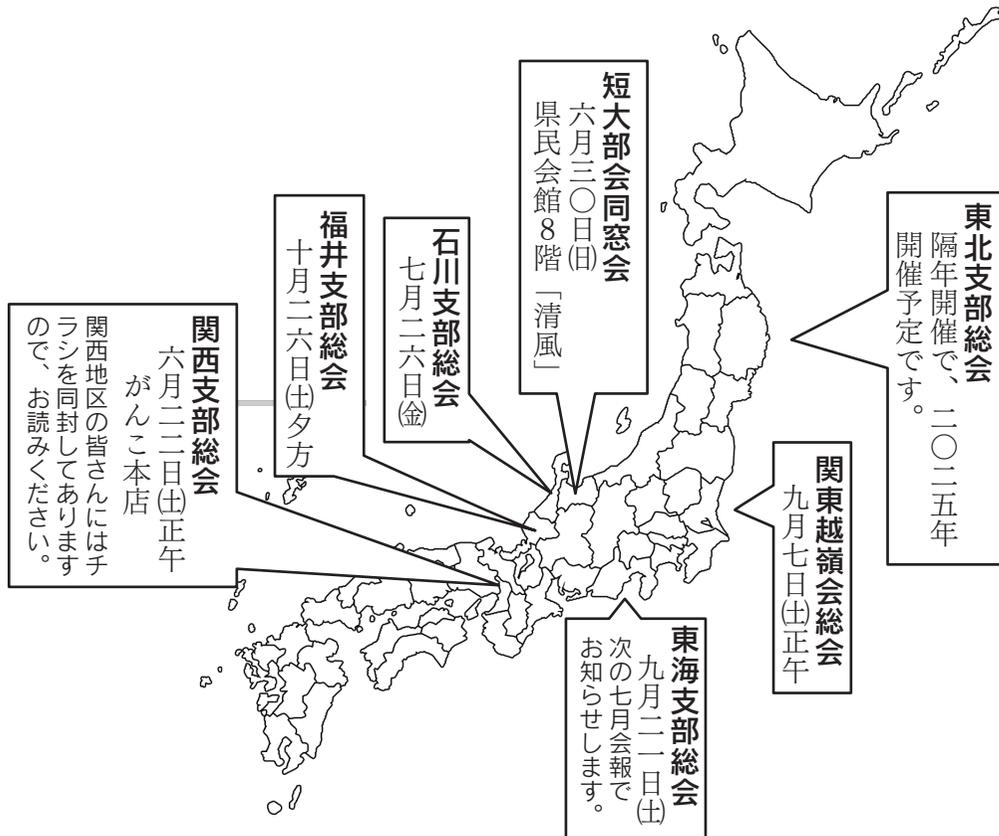


体育会総会 (2023.12.20)

ない。当然、活動の規模も小
さく行き届かないところがあ
るだろうが、新しい感性で持
続的な道を切り開いていく楽
しさを感じながら発展させて
いくことを大いに期待したい。
(やまぐち・たつひろ
第二〇〇期委員長)



各支部だより



東海支部

第二回ゴルフコンペ開催

去る二〇二三年十二月三日(日)に岐阜県多治見市の愛岐カントリークラブにて開催しました。

コロナ禍により四年振りの開催で、ゴルフ好きの同窓が一四名集まりました。少し寒くはありましたが、風のないゴルフ日和に恵まれ、初めて



一緒にプレーする先輩・後輩が親睦を図りながら楽しいひと時を共に過ごしました。

表彰式では白石ゴルフ部会長の司会の下、二二回生から六一回生までの幅広い年代が集まったことから全員の自己紹介から始まり名刺交換をしながら楽しい会話で終了しました。

また四〇回生の新川兼史さんから勤務先本社がある砺波市の名産チューリップの球根の差し入れがあり参加者全員の良いお土産となりました。

次回のコンペには友人等への誘いをして参加者を増やそうと皆で申し合わせし散会しました。

優勝は三六回生の中島弘人さん。ベスグロは三五回生の杉山富保さん。

支部長の中村からは東海支部の来年度の総会・懇親会は二〇二四年九月二一日の土曜日開催の報告と、二〇二四年は経済学部(旧高岡高商)創立一〇〇周年となり富山にて一〇月一三日に記念講演等の行事が開催される旨の報告がありました。
(中村記)

関東越嶺会

講演会・新年会報告

一月二七日(土)正午より東京
富山会館(文京区白山)にて
四年ぶりに開催されました。

林明宏代表幹事(学部二
八)の司会進行で、ゲスト紹
介の後、飯塚修会長(学部二
五)が開会挨拶をしました。
「ゲスト・会員の出席に感謝
します。能登半島地震の犠牲
者に哀悼の意を表し早急な復
旧を願います。今年には母校が
創立百周年を迎えるので我々
会員で盛り上げたい。今日は
待ちに待った講師の登壇で大
変楽しみ」と挨拶しました。
その講師は、ひたちなか海
浜鉄道の社長吉田千秋氏(学
部三六)です。高岡市福岡町
生まれ、砺波高校出身で富山
大学経済学部を一九八八年に



吉田社長

卒業後、富山地方鉄道や万葉
線の勤務を経て二〇〇八年公
募で選ばれ、ひたちなか海浜
鉄道の社長に就任されました。
演題は「ローカル鉄道の再
生 富山が発祥?’’でした。

〈講演要旨〉

◎ひたちなか海浜鉄道は、二
〇〇八年四月に茨城交通よ
り引継いだ第三セクター、
全長一四・三kmで十一駅。
株主はひたちなか市五一%、
茨城交通四九%。市民・行
政・事業者が一体となり存
続させた。
◎ピア列車・納豆列車・初詣
列車・駅ホームでの朝市・
沿線高校と連携など、地域
連携の活性化策を展開、初
年度三七〇〇万円の赤字が
開業十年で単年黒字となつ
た。

◎観光客が多い海浜公園まで
延伸する計画があり、ロー
カル線では異例のこと。多
くの事業費負担があり、距
離を短くする見直しをして
いる。
◎年間定期券や市民団体との
連携など、富山県の万葉線
での経験がベースにある、
また、ライトレールの展開

など、富山県には全国の鉄
道が参考となる事例がある。
佐伯宗義氏や谷村一太郎氏
など、各地の鉄道経営に多
大な貢献をした富山県出身
の先人がいる。

◎二〇二四年問題として、鉄
道・バス・タクシーの要員
不足がある。当社としては
他業務との兼務など、旧来
のやり方を変えて対応して
いる。

第二部の新年会(懇親会)
は、塚光雄副会長(学部一
一)の乾杯挨拶で始まりまし
た。副会長は、講師の吉田氏
に対して「控えめな北陸の人
が、よくぞ社長公募に手を挙



会場風景

げた。赤字経営から黒字への
改革は凄いい、簡単なことでは
ない」、これらは「あつぱれ
ー!」だと称賛されました。
各テーブルには、富山名産
のます寿し・かまぼこ・日本
酒(羽根屋・立山ほか)が並
べられ、会話も盛り上がり、
旧交を深めました。懇親会
の中、仰岳会関東支部長(富山
大学工学部)の平尾外志雄氏
をはじめゲストの皆さんから
もスピーチを頂戴しました

宴酣の中、永井副会長(学
部二一)の元氣な閉めの挨拶
にてお開きとなりました。

元富山県副知事の寺林敏氏
(学部二〇、氷見市在住)よ
り石出宗秀顧問(学部一一)
經由で、能登半島地震直後の
北日本新聞の号外等を頂戴し、
会場で回覧しました。被災の
大きさを改めて認識した次第
です。

【出席者】

- 講師 吉田 千秋
(ゲスト)
- 南谷 明輝
(東京富山県人会連合会)
- 平尾外志雄
(仰岳会関東支部長)

廣勢 哲久
 (東京礪波同窓会長)
 清水 大輔、岩崎 孝
 津幡 清志、星野 規子
 学部
 浦嶋 稔、玉川治之
 八 高土哲夫
 一〇 魚井晃二
 一一 塚 光雄、石出宗秀
 一二 柳沢一朗、飯田捷政
 一四 渡邊慶孝
 一八 福田哲郎、野村邦雄
 一九 長谷川健郎、
 二一 今井修一、江藤隆典
 二二 永井雅律、
 二三 竹澤喜孝
 二五 平方陸男
 二八 飯塚 修、村山 修
 三一 森 明宏、吉田正克
 三二 柿本浩和
 三五 山本康二
 五八 長岡恵子
 短大
 立田征夫
 子浦曜子 (林 明宏 記)

会員の訃報

謹んでお悔やみ申し上げます

卒業回	お名前	ご命日	卒業回	お名前	ご命日
高商18回	尾山 正治	令 1 (2019).8.8	学部21回	杉山 英雄	令 6 (2024).2.8
高商19回	安藤 重吉	平27(2015).2.18	学部28回	好田 健一	令 3 (2021).4.9
	永島 一郎	令 5 (2023).2.27	学部31回	佐藤 又規	令 3 (2021).5.18
	橋本 完	令 5 (2023).12.20	学部33回	斎藤真理子	令 4 (2022).9.17
学部 1 回	米澤 寛	令 5 (2023).8.12	学部41回	中島 暢子	令 4 (2022).4.5
学部 3 回	村澤 晃	令 5 (2023).10.20	学部43回	能本 武志	令 4 (2022).1.11
学部 4 回	長澤 茂	令 5 (2023).4.2	学部47回	嶋橋 裕之	令 5 (2023).9.14
学部 7 回	高田 正樹	令 4 (2022).12.21	短大 2 回	藤木 伸治	令 5 (2023).3.27
	大井 健三	令 5 (2023).12.8	短大 3 回	飯野 勉	令 1 (2019).7.14
学部 9 回	谷本 昭夫	令 4 (2022).10.31	短大 5 回	宮崎哲雄(教雄)	令 3 (2021).11.10
学部10回	篠田 勉	令 5 (2023).11.18		山田 雅夫	令 2 (2020).3
学部11回	吉田 一男	令 4 (2022).4.10	短大 6 回	南野 清司	令 5 (2023).7.23
学部13回	苗加 仁之	令 5 (2023).10.11		愛場 巖	令 1 (2019).5.31
	中村 稔	令 6 (2024).1.16		松尾 晃	令 5 (2023).10.4
学部14回	中谷 正八	令 5 (2023).9.19	短大10回	村沢 幸三	令 4 (2022).8.5
	広瀬 栄夫	令 5 (2023).7.24	短大13回	大浦 亨	令 2 (2020).2.27
			短大20回	長澤保奈美	令 6 (2024).1.4

この後の「越嶺会報」

発行予定

第九七号 七月十日ごろ
 第九八号 九月十三日ごろ
 (記念大会一か月前！)

原稿募集しています。

越嶺会員の集まった話、
 少人数でも、ほかの学部
 OBが入った会合でも構
 いません。小さな輪が広
 がっていきばいいなと思
 っています。

越嶺会ホームページを
 ご覧ください。
 表紙の題字下のQRコ
 ードを読み込んでくださ
 い。
 また、記念大会の申し
 込みもお待ちしております。
 二四頁の下にあるQR
 コードで申し込みができ
 ます。
 二四頁の上の申込書に
 ○をつけてお送りくださ
 い。(Faxでも郵送で
 も結構です)

富山大学経済学部 (旧高岡高商) 創立100周年記念ゴルフコンペのご案内

拝啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

さて、越嶺会グリーン会が主催するゴルフコンペを下記のとおり開催いたします。

本年、富山大学経済学部 (旧高岡高商) が「創立100周年」を迎えるにあたり、記念行事の一つとして記念ゴルフコンペを開催いたします。より多くの越嶺会会員の皆さまにご参加いただき、同窓の絆を深めるとともに、同窓と現役との交流の機会ともなればと考えております。

何かとご多用のこととは存じますが、同窓会員の方々をお誘い合わせの上ご参加くださいますようお願い申し上げます。

敬具

記

- 開催日時 2024年10月14日 (月・祝) 7時00分スタート
開催場所 太閤山カントリークラブ (コース：茜⇒楠、楠⇒蘭、蘭⇒茜)
〒939-0323 富山県射水市平野1番地/TEL：0766-56-1200
参加費 プレー代 15,650円 (税込/キャディ・乗用カート付き)
会費 5,000円 (但し、20代・30代 3,000円)
※キャディ不足によりセルフプレーをお願いする場合がございます。
※セルフプレー代 13,450円 (税込/乗用カート付き) となります。
競技方法 18ホール・ストロークプレー H'cpは新ペリア方式を採用し、36で打切ります。
表彰 順位賞、飛賞、BB賞、ベストグロス賞、その他各賞
※競技終了後、懇親会会場にて表彰いたします。
参加申込 **8月31日(土)までに**、下記の参加申込書をFAXまたはメールにて、越嶺会事務局へ
お申込み願います。お一人でのお申込みも可能です。
お申込み先 越嶺会事務局 〒930-8555 富山市五福3190 富山大学経済学部に
TEL：076-445-6411 (直通) / FAX：076-445-6419 (学部共通)
E-mail：etsurei@eco.u-toyama.ac.jp
お問合せ先 幹事 金瀬 正志 (学部41回)
勤務先：日本海ガス(株) 〒930-8588 富山市城北町2番36号
TEL：076-443-1820 / 携帯番号：090-8965-1810
E-mail：kanase@ngas.co.jp

以上

宛先：越嶺会事務局

FAX：076-445-6419

参加申込書

創立100周年記念ゴルフコンペに参加いたします。 A：高岡高商 B：富大経済 C：経営短大

フリガナ		生年月日	昭和・平成	年	月	日生
氏名		回生		ゼミ		
住所	〒	—				
連絡先Tel		—		電子メール		

同伴希望者名①		住所		回生		ゼミ	
同伴希望者名②		住所		回生		ゼミ	
同伴希望者名③		住所		回生		ゼミ	

セルフプレー (右記欄に○付)

可 (希望) ・不可

経済学部創立百周年記念エクスカージョン (小旅行)

実施日：令和6年10月14日 (月・祝)

会費：A、Bコースとも5千円 (同伴者同額)

第1回申し込み締切：令和6年5月21日

経済学部創立百周年記念事業として、学生時代に過ごした日々を想起し富山大学・富山県の「今昔」を実感できる、エクスカージョン (小旅行) を実施いたします。
下記の内容をご参照いただき、奮ってお申込み・ご参加ください。

○コースのご案内： 以下2コースでの実施を予定しております。

A) 立山散策コース (8:30集合～17:00頃解散予定)

富山駅北口===五福キャンパス見学===立山カルデラ砂防博物館 (立山の自然や歴史を学べる施設です)
===室堂散策 (紅葉・みくりが池付近の景観をお楽しみください) ===あるぺん村 (休憩・お買い物)
===富山駅北口

B) 富山・岩瀬コース (9:15集合～16:15頃解散予定)

富山駅北口===富山大学五福キャンパス見学===
===呉羽丘陵フットパス連絡橋 (富山市の新たなランドマーク) ===
===池田屋安兵衛商店 (ます寿司体験または食べ比べ) ===富岩運河環水公園 (富岩水上ライン乗船)
===岩瀬カナル会館===岩瀬散策 (満寿泉・森家など) 富山港展望台===富山駅北口
※バス、もしくは市内市電 (路面電車) にて移動

お申込みは下記申込書を、メール、FAX、郵送のいずれかにて越嶺会事務局までご連絡下さい。
詳細についてはエクスカージョン担当・竹田達矢 (学部38回) までお問い合わせください。
なお催行人数 (20名) に達しない場合は中止となる場合もありますので、ご了承願います。

----- 切り取り線 -----

(申込書)

コース	お名前	卒業回	〒	現住所	携帯電話又は自宅電話番号

富山大学経営短期大学部同窓会のご案内

“10年ぶり”の同窓会企画です。皆さまのご参加をお待ちします。

日 時：令和6年 **6月30日 (日) 12:00~15:00**

会 場：レストラン「清風」(富山県民会館8階 電話 076-432-4110)

会 費：10,000円 (当日ご持参ください)

講 演：懇親会に先立ち講演があります。

演 題「私を育ててくれたもの ふるさと」

講 師 越嶺会最高顧問 中尾 哲雄氏

FAX送信票 (越嶺会事務局 FAX:076-445-6419)

6月30日(日) 同窓会に 参加する 欠席する

お名前 _____ 卒回 _____ 回 (_____ 年卒)

通信欄

住所変更通知欄 (越嶺会事務局 FAX:076-445-6419)

住所や姓名等に変更があった際はFAX等でお知らせ下さい。

お名前 _____ 昭、平、令 _____ 年卒 (第 _____ 回)

新住所 _____

新電話 _____

(差し支えなければメールアドレス _____)

新勤務先 _____

— 通信欄 —

記念大会及び関連行事への参加申込書

越嶺会事務局 FAX 076-445-6419

下記4つの行事について参加申し込みを募ります。本誌の第2頁等をご覧ください。

お名前 _____

卒業回・年 _____

- | | | |
|---|----|-------|
| 1. 記念式典・パネル講演・演奏会 | 参加 | 参加しない |
| 2. 祝賀会 (会費1万円は当日現金でお支払いください。) | 参加 | 参加しない |
| 3. ゴルフ 21頁のゴルフ申込書もお送りください。 | 参加 | 参加しない |
| 4. エクスカーション (バス小旅行)
22頁の参加申込書もお送りください。 | 参加 | 参加しない |

通信欄

富山大学経済学部(旧高岡高商)

創立100周年記念大会

2024

大会テーマ

10.13 SUN

新たな価値創造とチャレンジする人材育成
(学生と企業との出会い創生)

記念式典

開会 10:00~12:00(受付開始 9:00)

会場 AUBADE HALL オーバード・ホール大ホール
富山県富山市牛島町9-28 (JR富山駅北口)

記念祝賀会

開会 13:00(受付開始 12:30)

会場 オークスカナルパークホテル
富山県富山市牛島町11-1

富山大学経済学部卒業生の越嶺会員の皆さまには
100周年記念大会・記念事業へのご寄付をお願いいたします。

概要は、右記QRコードより越嶺会ホームページをご参照ください。▶



富山大学経済学部同窓会

越嶺会

越嶺会事務局

〒930-8555 富山大学経済学部内
TEL : 076-445-6411 FAX : 076-445-6419
mail : etsurei@eco.u-toyama.ac.jp
URL : <http://www3.u-toyama.ac.jp/etsurei/>

式典・祝賀会のお申し込みはこちらから

